



国際平和戦略研究所

中国の野望「月の軍事基地建設」について

米国の信頼できる、当方の友人である「国際評価戦略センター」リチャード・フィッシャー氏の情報によると中国は月を軍用化する計画がある。情報によると、中国軍は最近シンポジウムを行い内々に月面の軍用化について話し合った。会議では、中国軍の専門家によって“月面空母”（月面からサテライトを攻撃する）のコンセプトが発表された。一連のプランには：米国の早期警戒衛星の位置を検出する、さまざまな種類の軍事検出システムの確立、アンチサテライトレーザー兵器の配備等が含まれる。この情報は2011年5月にジャーナリストの古森義久氏より一部が発表されている。

このプログラムの目的は、米国、ロシアや他国の宇宙船の監視である。

このプログラムは2つの軍事目的を達成しようとしている。

- 1) 上記の国のサテライトの位置を把握し、必要であれば妨害行為や攻撃をする
- 2) 目標物のデータを保管し、中国のアンチサテライトに指示を出す

中国の月軍事計画はしっかりと実行されているようである、表向きは月探査計画として取り組む国家プロジェクト・嫦娥計画だが、ほぼすべての開発プロジェクトは軍事利用と関係していると考えべきである。

Chang'e 1（嫦娥1号）プロジェクトが2007年10月24日打ち上げから始まり、その内容は軍事用途のためのものであることを示している。現在の3段階の月探査プログラムでは、Chang'e 3（嫦娥3号）2013年12月2日に打ち上げられ同年12月4日に月面に軟着陸しました。表面上、衛星は中国国家宇宙局によって打ち上げられたが、実際には大部分の技術者は軍とのつながりを持っていると言われている。国家科学技術国家管理局が、プログラム全体を担当している。

Chang'e 3衛星は、中国科学アカデミー国立天文台と西安光学精密機械研究所が共同開発した月光光学望遠鏡を搭載している。アップグレードすれば、他国の低軌道衛星を監視することが可能となる。

極端紫外線カメラ：1台の極端紫外線カメラが上陸用装軌車の上部に設置されている。このカメラは光学望遠鏡と統合され、低軌道で作動する他国の衛星を監視することができる。

Chang'e 3には月探知レーダーも装備されている。月面探査機の下部に1つの月探査レーダーが設置されている。このレーダーは月面30m深の土壌と数百メートルの深さの月地殻の構造を検出できると中国は主張している。レーダーは、CASのエレクトロニクス研究所によって開発



国際平和戦略研究所

された。レーダーを別の場所にさらに大きなアンテナと共に設置した場合、異なる軌道上で動作する衛星を検出することを含むことができる。言い換えれば、米国とロシアの宇宙船を探知するためにまず 2 種類の望遠鏡が使用され、必要に応じてこれらの宇宙船を追跡するために月配備のレーダーを使用するという。

Yutu (玉兔) 無人月探査機には、月からのサンプルの化学元素の組成を分析することを目的とした粒子 X 線分光器と IR 分光器が装備されている。

さらに、Chang'e 3 には高解像度のデジタルカメラも装備されています。さらに、月面探査機のマストには、高さ約 1.5m の位置に 2 つの全景カメラと 2 つのナビゲーションカメラが装備されている。

以前、中国は Chang'e 1 号と Chang'e 2 号の探査衛星を打ち上げた。両探査衛星には、月面を探検するデジタルカメラが搭載されていた。Chang'e 1 によって収集されたデータは、非常に正確で高解像度なため、月の 3 次元画像を作り出すことが可能である。月の軍事化の前に、中国は月の地図を描くために月の構造を非常に正確に探査していることがわかります。

Chang'e 1 に搭載された CCD 立体カメラの解像度は 120m。この CCD カメラは、レーザー高度計と一緒に使用され、3 次元月面図を描くことができる。現在、月のそのような地形図を持つのは米国とロシアだけであると思われる。

Chang'e 2 は 2010 年 10 月 1 日に打ち上げられ、月面上 100km の軌道上での研究目的に使用されている。また、Chang'e 3 衛星のソフトランディングの準備をすることを意図している。Chang'e 2 の最大のアップグレードは、新たに 1 メートルの解像度のデジタルカメラを装備したことだ。Chang'e 3 は可変速度推進システムを使用しており、それは月の表面に垂直に着陸させた。その後、Yutu の無人月探査機は、Chang'e 3 着陸車から月面へ 2013 年 12 月 14 日降り、作業を開始した。

これらすべての月探査活動は国家科学技術省国防総省が実際に設計し企画したものである。宇宙軍事専門家は、第 1 段階では、中国が月の包括的な測量とマッピングを完了し、簡略化された軍事探知装置を月面探査機にテスト目的で設置すると推定している。データは予備評価に使用される。

Yutu 無人月探査機は長さ 1.5 メートル、幅 1 メートル、高さ 1.1 メートル、重量 136 キロ、6×6 の車輪、積載量 20kg。月面探査レーダーは、月の表面下 100m を検知することができる。これは、中国の軍事専門家が軍隊の会議で言及した月面レーダーである。現在、レーダーは月を



国際平和戦略研究所

探索するためにのみ使用されており、将来的に用途は幅広く拡大される可能性がある。

上記のように、Chang'e 2 の最も重要な機能は、高感度のデジタルカメラを使用して月面を録画できることだ。おそらく、この技術は米国とソ連よりも優れている。

中国は地球周回軌道以遠からの高速カプセル投入・回収ミッション嫦娥 5 号に備え試験機嫦娥 5 号 T1 の打ち上げを 2014 年 10 月 24 日に行い、同年 11 月 1 日に内モンゴルに着陸成功させた。中国の積極的な宇宙の取り組みは素早いものがある。

以上の事より、中国の目指す宇宙戦略は驚異的な飛躍を遂げていると考えるべきである、2003 年 10 月に有人宇宙船打ち上げ、2007 年 1 月衛星破壊兵器実験成功、2010 年には衛生攻撃能力を証明する実験を実施等々、想像を絶するスピードで航空宇宙分野に進出している。

中国の宇宙戦略の目標は建国 100 年の 2049 年までに「月面軍事基地」を建設する事で、月を軍事利用する事を目指し、宇宙（月）を舞台に核融合資源獲得やサイバー研究を始めとした世界一の軍事大国を目指していると考えられるべきである。

2018 年 4 月 26 日

リチャード・フィシャー氏との打ち合わせにて